南アフリカ新聞号外⑤

SABONA

鈴木　壮太

今回はかけ算指導についてです！！

かけ算指導を本格的にスタート

かけ算の学習が始まりました。まず何を目標に設定するかに迷いました。児童の算数力と授業時間を考慮に入れると、日本と同じ目標を設定することは難しいからです。最低限できてほしいことを考え、目標は、① かけ算の意味について知る。② かけ算九九について知り、１位数×１位数の計算をできるようにする。③ かけ算に関して成り立つ簡単な性質を知る。この３つを設定しました。現地教員に対する私の目標は① 指導法がとにかくシンプル。② 準備がいらない。③ 児童に分かりやすい。の３点です。アフリカでは日本の環境と驚くほどの違いがあります。現地教員の実態に合わせます。

かけ算指導の活動の流れ

【① 打ち合わせ】

この打ち合わせのねらいは、担任にかけ算指導の流れを知って、見通しをもってもらうことです。資料にある細かいことは話しません。面倒だと感じさせないように注意して、「楽しそう」と、いくらかの意欲をもってもらえたら、初手の段階では十分です。

【② 私が何度か授業をする。】

何度か私１人で授業をしてみて、担任に見てもらいます。担任も授業に興味をもってくれるし、私の言葉の未熟な部分を現地語で説明し直してくれます。授業後もひとこと感想を言ってくれます。その度に、先生たちの優しさが心に染みます。そういう先生たちのフォローがたくさんあって、私の活動が成り立っています。

【③ 私と一緒に授業をする→担任だけで授業をする】

最初は、私に見られるのは恥ずかしいから嫌だと言っていましたが、授業が始まると児童の反応も良く、担任も楽しそうでした。授業は順調に進みました。私は、担任が授業の流れを忘れてしまったときに、少しアドバイスをするくらいです。あとは頷いて「大丈夫だよ」という合図を送りました。授業後に担任に感想を聞いたり、私の感想を話したりしました。最後に「ユーアーグレイトティーチャー」と、ひとこと添えて、お互い笑って無事終了。

【④ 教育実習生にもやってもらう】

たまたま教育実習生が学校に来ていたので、授業してみないか誘ってみたら、快く授業をしてくれました。実習中は児童のノート等の添削をするか、授業（ほぼ自習）を見学するだけだったので、授業をする機会があっても良いのにと思ったのがきっかけです。ちなみに彼女にとって初めての現場での授業です。初陣です。私の指導法を気に入ってくれて、なぜか彼女の息子の家庭教師を頼まれました。

【⑤ かけ算九九の暗唱】

ここからが重要です。授業を通してかけ算の意味や、かけ算の性質等を学習しました。しかし授業をしたからといって九九がすらすらと暗唱できるわけではありません。いかに児童のモチベーションを高めながら、継続して暗唱の練習をさせるかがポイントです。正直なところ、児童は九九を覚えることが途中で飽きてしまうのではないか、担任もそれに比例して指導をする意欲をなくしてしまうのではないかと不安でした。

【⑥ 奇跡】

児童が練習を繰り返すうちに１人の先生が言いました。「こんなにできるようになったのだから、ぜひ全校集会でみんなにかけ算九九を披露したい。」そのアイディアが私にはありませんでした。かけ算指導をそこまで喜んでやってくれていることが何より嬉しかったです。その先生は全校の前でフラッシュカードを用いて九九を紹介したり、代表の児童を選んで九九を唱えさせたりする機会を設けました。だれも２年生がここまでかけ算ができるようになるとは思っていなかったようで、教員、児童共に歓喜。その日以来、自分もみんなの前で九九を唱えたいという思いが彼らのモチベーション維持に見事に繋がりました。彼女のおかげで、かけ算指導に興味をもつ教員が増えて、活動の幅も広がりました。